

# 若草中学校区新小学校開校準備委員会 第6回

1. 日 時：令和7年6月26日（木）18：00～20：00
2. 場 所：佐保地域ふれあい会館
3. 参加者：委員 出席20名 欠席6名 オブザーバー2名  
奈良市から3名（教育政策課）
4. 内 容

## 【1】会長より

- ・ 新小学校の見学については、解体工事中は危険であるため、次の工程で現場の確認を行う。
- ・ 校名について、来年の2月までに決めなければならない。決定方法について具体的な案を今日示させていただき、皆さんの意見を伺いながら進めていきたい。分科会等は設置せず、たたき台を事務局で作り上げ、ご意見を伺いながら進めていくというやり方でいきたいと思っている。

## 【2】前回議事内容の確認・資料の説明

- ・ 教育政策課より、前回の会議録の確認。
- ・ 4/27 佐保・6/8 鼓阪で行われたような説明会は継続的に重ねていくのか。（委員）  
→説明会については未定であるが、鼓阪小の保護者との連絡は継続して取りながら、佐保小に関しては工事の状況等必要に応じて情報提供をしていくことになる。（教育政策課）

## 【3】前回の統廃合（ならやま小中学校）の際の事例説明

- ・ 公募期間は1か月程度とし、全て紙ベースでアンケートを実施した。児童は学校から、地域の方は自治会の協力を得て実施した。校章や校歌は全国から公募する形であったためインターネットを利用した。
- ・ 児童から校名を募集する際には、学校長名で保護者の方にお知らせした。
- ・ 学校も地域も一緒になり新しい学校を作っていこうという意図から、教員についてもアンケート対象とした。
- ・ 小学校、中学校、こども園、出張所、公民館にアンケート回収箱設置した。
- ・ アンケートには住所と名前を書いていただき、「新しい校名」と、「その校名にした理由」を書いていただくという形にした。
- ・ 集計には教育委員会も協力しながら、開校準備委員会で「校名」「理由」とともにふさわしいものを3つ選んでいただいた。その3つに対し学校から児童生徒にアンケートを取り、最終的に「ならやま」が選ばれた。

## 【4】質疑応答

- ・ 二小一中の場合は、「若草」小学校という校名にはできないのか。（委員）  
→できないわけではないが、教育委員会からの提案としては「一小一中であれば同じ名前に」と提案をする  
が、今回は二小一中なのでそのような提案はしない。（教育政策課）
- ・ 年齢要件は「小学生以上」とするか。（副会長）→前回（ならやま）は年齢制限していない。（教育政策課）
- ・ 前回は数字は公表したのか。（委員）→応募数は会議中の発言として会議録で公開しているが、集計結果として公表はしていない。（教育政策課）
- ・ 用紙の一番下の「問い合わせ先」はどこになるのか。（委員）  
→佐保小学校、鼓阪小学校併記でそれぞれの電話番号を載せ、校長・教頭等で答えられることは答え、協議が必要な質問に対しては後日回答という形で考えている。（佐保小学校長）
- ・ 郵送先が、教育委員会になっているが、これでよいのか。（委員）  
→問題ない。集計後、用紙ごと開校準備委員会にお返しする。（教育政策課）

- ・ 応募フォームについて、どこに集計されるのか。(委員)  
→学校の分は、保護者にはさくら連絡網でアンケートフォームを送り、児童はタブレットで対応できる。低学年は難しければ手書きで対応する。教員についても学校で対応する。(佐保小校長)
- ・ 回収は自治会長にお願いするのか。(委員)
- ・ →回収は郵便か回収箱に入れてもらう。回収まで自治会長に負担を掛けることはできない。返送用の郵送料は各世帯に負担していただくよう考えている。(会長)
- ・ 回収箱はどうするのか。(委員) →前はダンボールで作っていた。(教育政策課)
- ・ こども園は土曜日は職員が二人しか出勤していない。受付曜日と時間帯を指定してもらわないと対応できない。(委員) →学校、こども園など回収箱を置く場所を列記し、受付時間を書けばよいのでは。(委員)

## 【5】 意見

- ・ 学校は在校生だけのものではなく地域の学校という側面もあるため、校名を決めるのであればより多くの地域の皆さんが参加するために全戸配布をすべきではないか。(委員)
- ・ 全戸配布する必要があるのか。投票したい人に用紙を取りに行っていて書いていただくという方法が一番簡単な方法ではないか。(委員)
- ・ 一世帯に一枚でよいのでは。保護者として出した人が地域としても出すことを止めることは難しいが。(委員)
- ・ アンケート用紙は一人一枚必要ではないか。チャンスは均等にはないといけない。(委員)
- ・ 2万枚程度印刷しておいて、自治会長が足りないところに渡すのもいいのでは。(委員)
- ・ 全戸配布すると、学校から配布する分とダブるが、「一人一提案まで」「二重提出した人は、両方無効とする」ということさえはっきり明記しておけばいいのではないか。(委員)
- ・ 学校から出す応募用紙の注意書きとして、「保護者として出した場合は、地域からの応募用紙は出さないでください」と書くのはどうか。(委員)
- ・ 地域で公的な場所、たとえばこども園と幼稚園、そして児童館など、人が常駐しているという条件で回収箱を増やせば、みな近くのところに投函に行ける。学校だけに負担がいかずに済むのでは。(委員)
- ・ どんな校名にしても必ずクレームはある。これは誰が決めたのかという話になる。本来校名は教育委員会で決めること。それをあえて地域の色々な意見を聞いて決めていこうとしている。責任を持って決めていくために開校準備委員会を作った。自信を持って決めていくべき。(委員)
- ・ 本当に地域の人が書いたものなのか、判断することは実質難しいと思うが、「数が多かったものを選ぶというわけではない」ということが記載されているので、別段問題ない。多くても採用されない可能性もあるし、少なくとも良いものは採用される可能性もある。(会長)

## 【6】 会長より今後の流れについて

- ・ 今日の協議内容を踏まえて7月下旬までに事務局で案を作り上げる。
- ・ 作った案について、事前に学校・教育政策課とも調整し、でき上がったものを8月上旬には開校準備委員会の皆さんの手元へ郵送する。それに対し返信していただく形としたい(返信用の封筒を入れておく)。意見等があれば書き込んでもらい、意見がなければ「ない」として返送してもらう。
- ・ それを踏まえて、8月の下旬に開校準備委員会で最終確認をしたい。

次回開催未定

新しい学校づくりのお問い合わせ先：奈良市教育委員会事務局教育政策課 TEL0742-34-5386